

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 宮下 琢さん(一関市)

取材担当 一関農業改良普及センター 畠山 紀智

一関市大東町で令和4年に独立就農された宮下琢さんを紹介します。

介護士をされていた宮下さんは、令和3年度に一関市の新規学卒者等就農支援促進支援事業を活用して、市内のピーマン農家とイチゴ農家で1年間の研修を積み、翌年4月に認定新規就農者として就農しました。

研修先で得たハイレベルな生産管理技術と経験を活かし、現在はハウスと露地でピーマンを栽培しており、将来的にハウス栽培 18a、露地栽培 14a の計 32a まで拡大する予定とのことです。

効率的な生産・管理を行うため、令和4年度の新規就農スタートアップ支援事業を活用して、「自走式動力噴霧器」と「自動灌水装置」を導入。「ゼロからのスタートで、農地や施設の整備に費用がかさむ中、事業が機械導入の後押しになった。作業がすごく楽になり、1人でも効率よく水管理や病害虫防除の作業ができるようになった。」と語っていました。

常に作業効率を高めることを模索しながら、限られた労働力で目標とする経営の実現を目指す宮下さん。今後、地域の農業振興において活躍が期待されます。



動力噴霧器は早期に導入できたため、
就農当初から効率的な作業に貢献



自動灌水装置を確認する宮下さん